

第6回米沢市総合計画審議会 会議録

1 日 時 平成27年1月16日（金）13:30～15:30

2 場 所 伝国の杜小会議室

3 出席委員

尾形健明会長、安部美和子委員、泉多恵子委員、遠藤秀平委員、大和田浩子委員、奥村あい子委員、小野浩幸委員、柴田正孝委員、島津眞一委員、白井裕久委員、白石祥和委員、鈴木清治委員、中嶋朱実委員、林宗太郎委員、我妻仁委員
以上15名

（小野寺忠司委員、佐藤大喜委員、佐藤晃代委員、清野雅好委員は欠席）

事務局

副市長、総務部長、企画調整部長、市民環境部長、産業部長、建設部長、会計管理者、水道部長、市病事務局長、議会事務局長

（健康福祉部長、教育管理部長、教育指導部長は欠席）

総合政策課 課長、課長補佐、総合計画策定室長、担当

4 会議録

（1）開会

（2）会長あいさつ

会 長 皆さま、本年もどうぞよろしくお願ひ申し上げます。早いもので1月も半月が過ぎてしまいました。本日の審議会は今月中に提出が予定されている中間意見書の審議であり、非常に大事な審議となっております。気合を入れてよろしく願ひしたいと思います。なお、昨年12月12日に増田寛也氏をお呼びして講演会が行われました。委員の皆さまにも多数御参加いただきまして本当にありがとうございました。消滅可能性都市にならないよう将来を我々が背負っているわけですので、慎重審議をよろしくお願ひしたいと存じます。

（3）議事

事務局 審議会条例第5条第2項の規定により、会長が議長となることとされております。尾形会長に議長をお願ひしたいと存じますのでよろしくお願ひいたします。

会 長 それでは、議事に入ります。本日の会議につきましては、午後3時30分までには終了したいと考えておりますので、議事の運営につきまして委員の皆さまの御協力をお願ひいたします。はじめに米沢市新総合計画についての中間意見書(案)について、事務局から説明願ひします。

事務局 中間意見書(案)及び参考資料「中間意見の体系(第5回審議会意見反映版)」に基づき説明

- 参考資料としてお出ししている中間意見の体系(第5回審議会意見反映版)について説明いたします。
- こちらの資料は、前回の審議会での御意見と委員の皆様からその後個別にいただいた御意見等を踏まえまして、新しい項目の追加や語句の修正等を行ったものであります。
- 主な変更点としましては、これまで、スポーツの視点が抜けていましたことか

ら、柱2の「郷土を創る人材が育つ教育と文化のまち」に新しい項目として「スポーツ」の項目を追加させていただいたほか、前回空欄となっておりました柱3の交通基盤の「施策での取り組み・方向性」の欄を埋めさせていただいたところでもあります。

- その他、前回の御意見を整理・集約し、柱1の観光及び柱2の教育の項目について大きく加筆する等全体的に追加、修正をかけたところでもあります。
- この中間意見の体系を踏まえまして、中間意見書（案）を作成したところでもあります。
- 中間意見書（案）の構成としましては、はじめに、中間意見書策定の主旨について記載をしているところであり、次に米沢市の目指すまちの姿を「本市のまちづくりに求められるもの」と「米沢市の目指すまちの姿」の2項目に分けて記載をしているところでもあります。
- この「米沢市の目指すまちの姿」を実現するための分野ごとにおける現況や課題と、その対応の方向性を「米沢市の目指すまちの姿」としまして各分野、項目ごとに記載をしているところです。
- 最後に、参考資料としまして中間意見書の背景となります「米沢市を取り巻く時代潮流」を付けさせていただいております。
- 本日の審議会におきましては、この中間意見書（案）について御審議をいただくようお願いをするものです。
- 進め方としましては、はじめに、「中間意見書策定の趣旨」と「米沢市の目指すまちの姿」について事務局から概要を説明いたしますので、その後御審議をいただきたいと思っております。
- その後、「米沢市のまちづくりの方向性」について、分野ごとに事務局から概要を説明しますので、分野ごとに御審議をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いたします。
- なお、参考資料の「米沢市を取り巻く時代潮流」につきましても、特に御説明はいたしません。御意見がある場合は、各分野の御審議の後にお願いたします。

会 長 それでは、委員の皆様から中間意見書（案）について御意見を頂戴したいと思います。はじめに、「中間意見書策定の趣旨」と「米沢市のめざすまちの姿」について事務局から説明をお願いします。

事務局 中間意見書（案）に基づき説明

- 「中間意見書策定の趣旨」と「米沢市の目指すまちの姿」について説明をいたします。
- 中間意見書策定の趣旨につきましては、審議会の役割、意見書の位置付け等についてお示しをしている部分となります。
- 2ページ以降の「米沢市の目指すまちの姿」につきましては、はじめに「本市のまちづくりに求められるもの」としまして、人口減少社会やグローバル化の進展する中で、市民協働による取り組みのさらなる推進とともに、米沢のために貢献するという意欲ある市民の参画が不可欠であることから、これまでの審

議会での御意見を踏まえまして、様々な分野で市民の参画が実現されるよう、“人づくり”を中心に据えた取り組みを進めるとともに「挑戦し続ける活力ある産業のまち」、「郷土を創る人材が育つ教育と文化のまち」、「自然・人・都市の魅力が調和するまち」、「健やかな育ちと安心な暮らしを支え合うまち」という4つの柱を軸としたまちづくりを推進することを掲げているところであり
ます。

- また、“人づくり”は、「人の確保」、「人の育成」、「人の連携」の3つとし、「人の確保」では、様々な人材の確保をめざす施策を図り、「人の育成」では、様々な世代に応じた能力を引き出す施策を図り、「人の連携」では、産業や福祉、教育、環境、まちづくり等の得意分野ごとに連携を図り、それぞれの取り組みにあたる体制づくりを図ることを掲げているところであり、3ページにはそれを図示したものを載せているところ
です。
- 4ページに記載しております「米沢市の目指すまちの姿」としましては、米沢市が将来に向けて持続した発展をしていくためには、安定した経済基盤の確立とともに、市民一人ひとりがそれぞれの立場でまちづくりに主体的に関わり、安心して暮らし、互いに支え合う地域社会を形成していく必要があることから、“米沢の豊かさ”を受け継いでいくような人同士や世代間のつながりを大切にする人づくりを目指し、人々が「育つ」、「つながる」、「暮らす」、「楽しむ」、「働く」、「学ぶ」といった様々な“豊かさ”が調和する「いつまでも住みたい」、「住んでみたい」と感じられるまちづくりを進めることとしたところ
であります。

会 長 それでは、御意見を申し上げます。

委 員 冒頭の説明文の中で、「米沢市の50年後の姿を定め」と記載してありますが、この50年という数字に少し不安を持ちました。この50年という数字は、第2回審議会の際に、委員が考えてくる議題として、10年後、20年後、30年後、40年後、50年後の米沢がどうなっているかという設問があり、それに
応じて考えをまとめたわけ
です。審議が進むにつれ、この20年～40年が抜け、50年後だけが残されています。50年後の姿を見極められるかはとても不安に
思
います。30年後だとどうにか見据えられるかなと思いますし、見届けることも可能かとは思いますが、50年後を見届けることは出来
ない
ですし、50年の長いスパンで考えるのも少しおかしいと思
い
ます。私たち審議会委員の課題は今後10年を見据えた計画を審議することで、次の20年を見通すというのは理解
で
きますが50年後を見定めるのは現実味が帯びておらず、全ての意見書が「絵に描いた餅」のようになってしま
う
不安を抱きました。この50年後は本当によろしいのでしょうか。

会 長 事務局としてはどう考えますか。

事務局 御指摘をいただき、この50年後を定めという表現については見直します。委員へ将来像の御検討を
い
ただく際に、将来へ向かってのベクトルという例示の意味で50年をイメージしていただきたいという、検討の仮定
で
あり、50年の姿を定めたわけではございませんので、別の表現に改めさせていただきます。

会 長 他にございますか。今回の意見書は「人づくり」が中心に来ておりますけれども、それについても御意見を申し上げます。

委 員 4 ページの米沢の目指すまちの姿のところ、「豊かさ」を目指すという意味で取れる表現があるのですが、「育つ、つながる、暮らす、楽しむ、働く、学ぶ」といった豊かさだけを目指す表現でよろしいのでしょうか。「人づくり」とすると、精神性や人の持っている内面的なものが向上するような教育の部分も入れていかなければならないのではないのかなと思います。上杉の城下町で、上杉鷹山や直江兼続の考えをベースにしていくことを考えれば、単なる豊かさではなく、精神的な豊かさも入れていただきたいなと思いました。

会 長 「育つ、つながる、暮らす、楽しむ、働く、学ぶ」にもう一つキーワードが入った方がいいということですか。

委 員 ここにまちづくりしか書いていない気がするのです。「学ぶ」というキーワードはありますが、人間形成や精神形成というものも入っていたほうが良いと思います。

会 長 事務局としての考えはどうですか。

事務局 本日の意見書（案）に対して、委員で御審議いただき、事務局として再検討ということであれば、見直しを図るなどの進め方にさせていただきたいと存じます。

会 長 では、すぐに答えは出せないかもしれませんが、委員の皆さまから御意見をいただきたいと思います。他にございますか。

委 員 4 ページの米沢市の目指すまちの姿について、「豊かさ」という点で私は違う感覚を持ちました。「“米沢の豊かさ”を次代へ受け継いでいくような」と書いてありますが、豊かさを次へ受け継いでいくことを目指しているのではないと思います。米沢が豊かなところだと実感している人がどのくらいいるかですが、実感が足りないから課題が累積されているのであって、いいところはたくさんあるのですけれども、決して豊かではないからこそ人口も若者も流出していくし、だからそこに歯止めをかけようというのがポイントだと思うので、米沢の豊かさを次代へ受け継ぐのではなく、「米沢の良さ」を受け継いでいくくらいの表現で止めておかないと、ここで豊かさと言ってしまうと次から私たちが考えていく計画に対して、豊かであればいいという感覚になってしまうことも考えられるので、「豊かさ」で捉えるのは危険と感じました。

委 員 まちづくりの中に「人づくり」と表現されていますけれども、まちづくりをするのにはまちを作るというイメージで納得いきますが、「人づくり」という表現は引っ掛かっております。こういった審議会の場で人をつくるという表現が適切なのかどうか疑問を持ちました。

会 長 「人づくり」といっても色々ありますね。教育というのもありますし、産業に役立つ人を育てるとか、起業家を育てるとかあります。

委 員 色々あるとは思いますが、文字にしたときにどうなのかなと思いました。

会 長 私は、この10年間は消滅可能性都市にならないように、米沢のまちをしっかりと育てるためには、色々な意味で「人づくり」に一生懸命頑張る10年だと思っております。そのような感覚で捉えておりました。他に御意見ございますか。

委員 私も全体的に見てうまくまとまっているなと思っております。人づくりに関しましても、会長がおっしゃるように大きく捉えたらいいのでは思ったところですが、一つ気になったのは、2ページにあります、人づくりの三つの柱の一番下で、「産業や福祉、教育、環境、まちづくり等の得意分野ごとに」とあるのですが、連携を目指すならば、米沢市は色々な文化団体が一生懸命に活躍しておりますので、ここに文化という言葉を入れておいてもいいのかなと思ったところでした。

委員 4ページの目指すまちの姿を読ませていただいて、私が受け取ったイメージとしまして、10年後の米沢市の姿として、今までの10年と、今後の10年のどこが違うのか比べると、あまり変わっていないという印象です。人づくりを目指すという視点を中心に据えていることは10年前と違うことだと思うのですが、10年前に同じような目的を持って進めた結果、今どうなったかということ、委員の皆さまから出たように、人口減少や少子化、産業の低迷など全体的に縮小しているというのが10年経った結果であって、これから目指す10年後の姿が、この計画では、「経済基盤を確立しながら、行政は財政力が少なくなっているのでも市民が協働しながら手を携えていきましょう」という姿しか見えてこないのです。人づくりは大事なのですが、そこにもう一つ、課題になっているような消滅可能性都市にならないための10年にするには他にも大きな柱がほしいと思います。それが豊かさだと言ってしまうと、経済的な豊かさと精神的な豊かさがマッチし、自然を大切にしながら慎ましく生きていくというのは分かるのですが、一方で置賜地方の発展をけん引する中心都市という意気込みも出ているわけですので、市民がここを読んだ時に、こういうまちを目指すのだなと思わせるようなインパクトのあるものにしないといけないと思います。

委員 私も似たような印象でした。きれいにまとめてあるのですが、理想なのだという思いが拭いきれませんでした。「挑戦」という言葉が出てきたことはいいことだと思います。しかしそれが、まちづくりに求められるものと、目指すまちの姿の中にあまりチャレンジ精神が反映されていないように感じます。先ほど「人づくり」と出ましたが、もちろん人づくりは大事ですけれども、簡単に人、人、人と言っている気がします。目指すまちの姿で置賜地域の中心都市ということで、近隣市町からも中心になってほしいと求められていると有識者インタビュー報告書でも拝見しましたので、米沢市としてもチャレンジ精神を持って置賜の中心として近隣をけん引していく意識を感じられるような文言を入れられないのかなと思います。受け継いでいくという表現が目立ちますが、受け継ぎながら何にチャレンジしていくのか、例えば米沢ブランドを世界に発信させるといったような、はっきりした目標が入れられるともっと米沢をアピールできると思います。

会長 今の発言は「挑戦し続ける」キーワードがいいという提案でした。先ほどの委員は何かキーワードはありますか。

委員 千葉県流山市は少子化対策の先進事例として取り上げられておりますが、「若者が住むなら流山」というイメージがあって、そこにすべての資源を集中して10年間取り組んでいこうと進めております。総合計画なので、色々なところに目配りをしながら、行政として総合的な政策を展開することは必要なのですが、その

柱として「人づくり」が出たのであれば、人づくりを行った結果の姿を出していただきたいなと思います。例えば、県内一の人材創出をするまちや、国際的な人材を生み出していくまちというような、市民がパッと見て分かるようなテーマを設定していただきたいと思います。

会 長 ありがとうございます。〇〇なまち米沢といったキャッチコピーのような言い方になるかもしれませんが、インパクトのある言葉がほしいと思います。他に御意見等がなければ、次に、米沢市のまちづくりの方向性のうち、1の挑戦し続ける活力のあるまちについて事務局から説明をお願いします。

事務局 中間意見書（案）に基づき説明

- 米沢市のまちづくりの方向性については、最初にまちづくりの柱ごとに全体の現況、課題、方向性等を記載し、その後その柱の分野ごとの方向性等を記載する構成となっております。
- 挑戦し続ける活力ある産業のまちの全体の現況等につきましては、地域間、国際間での競争が高まった結果、ものづくり企業の付加価値は減少し、雇用形態や労働環境も多様化し、地域経済にも大きく影響を及ぼしていることから、今後は、人口定住に結びつく持続可能な経済活動の実現に向けて、新しい産業やサービスを継続的に生み出していく、人もまちも挑戦し続ける活力あるまちづくりの推進が求められているところとしているところです。
- また、本市の地域資源を最大限に活かした観光の振興、商店街を消費者に魅力のある商業の場として形成し、交流の場として、交流人口の拡大を図っていくことも重要であり、さらに農業では、担い手の育成や経営安定化、地産地消、地域住民との協働による農山村の環境向上を推進していく必要があるとしているところです。
- こうした現況を踏まえまして、商業におきましては、商業環境の整備に努め、賑わいのある空間を形成していき、また、コンパクトな中心市街地の形成と多様な魅力を集積する拠点づくりを進めることにより、人が行き交い、交流する複合的な機能を有する商業空間として充実を図ることが求められているとしたところです。
- 工業におきましては、次世代の産業をけん引していくことが期待できる高い成長力や先端性を持つ産業の集積、人材の育成を図るほか、山形大学工学部等の研究シーズや地元企業の技術等を活用していく必要があるとしたところです。
- 観光におきましては、豊富な観光資源を活用した観光振興を図っていくとともに、新たな魅力となる観光資源の発掘、集客力の高いイベント等の創出を行い、既存の観光資源についても、よりブラッシュアップしていき、「訪れたい」から「暮らしてみたい」と感じられるまちづくりを推進していく必要があるとしたところです。
- 農業におきましては、市民に安全で高品質な農産物を安定的に供給できる価値の高い産業として持続的に発展できるよう、生産基盤整備を図り、担い手、労働力の確保、農産物の高付加価値化等に取り組む必要があるとしたところです。また、地産地消を推進し、食料自給率の高いまちづくりを推進していくことも

重要であるとしたところ です。

- 総合的な産業振興におきましては、今後も引き続き、新しい産業や金融サービスを継続的に生み出していく等して総合的な産業振興を図っていく必要があるとしたほか、市内に住む学生の定着や、女性や若者に選ばれる都市の形成に向けた取り組みも重要であるとしたところ です。
- 雇用におきましては、正社員と非正規社員の格差が生じており、特に非正規雇用の増加は、未婚化や晩婚化の一因にもなっていることから、雇用環境の向上や産業全般にわたる多様な雇用の場、職業の確保が求められているとしたところ です。
- また、持続的な経済成長を実現するためにも、女性や高齢者、障がい者等の就労につながる多様な支援の強化が求められているところとしたところ であり ます。

会 長 それでは、御意見を お願い します。

委 員 皆さんから出された御意見と同じことを感じておりまして、今までの議論のプロセスを見ますと、最初3本柱だったのが、4本柱となり、非常に安定感が出たということと過不足感がなくなってきたなと思 いました。しかし、過不足感がなくなったところで、この意見書の米沢市を消して別の都市名を入れても通用しそ うだなと感じました。ほとんど多くの地方都市だとこの計画を創れば80点以上 獲れる形になったというのが第一印象です。では、審議会の委員として、どうい うアイデアを出すかが求められているのだらうと思 いますが、短い言葉でアイデ ンティティーがあつて、その言葉で米沢を連想できる言葉とは何かということが 欠けているところだと思 います。先ほど他地域での例が出ましたが、市民にとつ ても地域経済社会にとつても必要なテーマを、あるコンセプトを挙げてアイデ ンティティーを創出し、向かおうとする方向性を鼓舞しようとするものは他地域で もいくつかあります。例えば、神奈川県知事が「未病」というコンセプトを打ち 出して、この地域社会と県民が直面する課題について、特化して生活環境や居住 や産業構造も誘導していこうとしておりました。そのような米沢ならではのキー フレーズでいい知恵を出せたらいいなと思 い悩んでいました。

会 長 何かいいフレーズはないですかね。確かに必要です。なかなかいい言葉が出て きませんが、我々としては米沢モデルを作りたいということ です。

委 員 おっしゃる通りで、そこが足りないところだと思 います。もしかしたら、私た ちはキャッチコピーを作るべきなのかもしれませ ン。今までの審議会でもそのよ うな流れはあつたかと思 いますが、真剣にキャッチコピーを創って掲げる都市が、 現在人が集まっていたりするところだと思 うので、やらなければならないことだ と思 います。例えば、この項目一つずつにキャッチコピーをつけて、商業なら、 米沢をブランド化して世界へ売り出す商業として、雪国も売り出すべく「スノー シティよねざわ」という商標を登録して商品を世界へ発信していくというキャ ッチコピーであつたり、工業であれば、有機エレクトロニクスに関することで山形 大学が中心になってしたり、農業でしたら自給率を高めることで販路を増やすと いったものが、項目ごとにはっきり書けたらいいのではないかと思 います。

会 長 先ほどの神奈川県は「未病」を根本において、まちづくりをどうするか検討したり、産業構造を考えたりしていくのだと思います。この「未病」に相当する米沢らしさというのがあるといいのかなと思っています。この中間意見書は市長へ今月お渡しする予定ですので、その後最終的には7月に答申を行います。コンセプトやキャッチコピーを考える時間はあるのでしょうか。

事務局 委員からの考えを中間意見書として市に御提案いただき、併せて今日いただいた意見も宿題をいただいたと感じております。それを全ていただいたうえで、市役所内部で総合計画のたたき台を作成し、春に審議会へ御提示する予定であります。本日いただいた御意見も含めて中間意見書と共に事務局としては受けさせていただきます。

会 長 ありがとうございます。他に御意見ございますか。この分野は委員からもたくさん御意見をいただいた事項ですので、不足はあまりないかと思いますが。

委 員 5ページにある前段の説明の部分ですが、3段落の「しかしながら、」以降の説明と4段落の「今後は人口定住に結び付く持続可能な経済活動の実現に向けて」のつながりが唐突すぎると感じました。地域経済にどのように大きく影響を及ぼして、それがどうなっているかに触れていないと、人口定住促進への説明がないと思いますので、今までの審議会に出てきました、人口流出が進み人口減少が加速するという説明がないと、文章がつながらないと思いました。もう一点は、7ページの1-6雇用についてですが、最後に「女性や高齢者、障がい者等が社会で活躍できるよう、就労につながる多様な支援の強化が求められます」と書いてありまして、前回意見させていただいた授乳時間や産前産後休暇のことを反映して文章化していただいたと思うのですが、もう少し分かりやすく、就労につながるだけでなく就労を続けられる多様な支援の強化と表現していただきたいと思いました。

会 長 ありがとうございます。他に御意見ございますか。

委 員 先ほど他の委員からお話しがありましたキャッチコピーですが、私も絞り込んだものが入ってもいいのかなと思っています。1-3観光の中に、集客力の高いイベント等の創出を行うとありますが、イベントは集客力が高い方がいいのですが、これはどこでもやっていることです。イベントは発信力が一番大事になってきていると感じており、そのイベントで何万人集めたという考えではなく、何十万、何百人の人がイベントの情報を通じてそのまちを知り、興味を持つことができたかが大事だと思っています。決まった費用で効果的・効率的な情報の発信という項目を足していただければと思いました。もう一点は、米沢モデルではありませんが、ここに書いてあることは観光の相場的なことですので、言い切っていないかどうかですが、米沢は団体客にはそぐわないのが現状なのです。個人旅行等のニーズを絞り込んで、そこへ向けて観光をPRするというのを入れてもいいと思います。

会 長 確かに、以前は市内に団体が食事できるお店がなく、高島町まで行ってしまうということがありました。他に御意見ございますか。

委 員 1-6雇用に関して、求職と求人のミスマッチと記載してありますが、一般的

にミスマッチで就職することを止める人は全体のほんの数パーセントだと思います。雇用状況の悪化や、若者の就職できない現状を見ると、ミスマッチ以前に教育などの問題があると感じています。このミスマッチの表現は改めたほうが良いと思います。また、今も総合計画に基づいてまちづくりが進められていると思いますが、計画として立てた時に、評価するうえで「豊かさ」はそれぞれの感覚で違うと思うので、その豊かさを数値化するなど視覚化を行って、それに向かって、例えば福祉分野であれば、生活保護受給者の割合が県内で最も高いところを改善に導くなど、目標を掲げることで、途中で振り返ることも可能ですので、そういった数値化も必要だと思いました。

会 長 もう少し定量的な話が必要だということですね。では、他に御意見等がなければ、次に、2の郷土を創る人材が育つ教育と文化のまちについて事務局から説明をお願いします。

事務局 中間意見書（案）に基づき説明

- 全体の現況等につきましては、本市は、城下町としての歴史・文化、学園都市、市民協働による米沢鷹山大学等、豊富な教育文化環境を有する一方で、中学生・高校生世代は、進学、就職により米沢を離れたいと考える傾向が強く、大学生の地元定着率も低い状況にあることから、今後は、大学生の地元定着や若者の地元就職、Uターンの割合を高める等の取り組みが求められるところとしたところであります。
- また、自主的・自立的なまちづくりを展開していくために、郷土への愛着を感じ、様々な分野で米沢のために貢献するという意欲ある人材が育つまちづくりを推進していく必要があるとしたところであります。
- こうした現況を踏まえまして、教育におきましては、学校教育の内容の充実や、体験学習等を活用し、子どもたちが郷土を愛し、たくましく社会生活を営むことができるようにするとともに、自立心、チャレンジ精神の育成に取り組むほか、学校や社会に適応できない児童、若者を復帰させるための一貫した支援体制の整備も必要があるとしたところであります。
- 生涯学習においては、市民が地域や世代を超えて集う、楽しむ、学ぶ、いきいきとした活動・交流ができるよう、環境や活動の充実を図る必要があるとしたところであり、さらに、子どもを生み育てる家族観、結婚観を醸成する等、将来を担う本市の“人づくり”がさらに浸透するよう取り組む必要があるとしたところであります。
- 文化におきましては、郷土文化や歴史を大切にす活動を進め、誰もが誇りを持てる文化を継承するまちづくりを進める必要があるとしたところであります。
- また、市民の自主的な文化活動がより一層活発に展開されるよう、芸術文化活動への参加機会の拡充や、優れた芸術文化に接することができる環境づくりを進めていく必要があるとしたところであります。
- スポーツにおきましては、生涯を通じて自分にあつたスポーツに親しみ、健康に暮らせるよう、年代に応じたスポーツ活動の推進とともに、観るスポーツの

促進等により、スポーツに対する市民の関心を高める取り組みが求められているとしたところでもあります。

- まちづくりにおきましては、様々な分野で米沢のために貢献するという意欲ある人材の参加や身近な地域課題を解決するための市民を主体とした地域運営の仕組みづくりを進めていくこととしたところでもあります。また、外部からの人材確保や女性の積極的参画も求められることとしたところでもあります。
- 学園都市におきましては、山形大学工学部、米沢栄養大学・米沢女子短期大学の3つの高等教育機関が立地している特色を活かして、大学、企業、市民との連携・協働による様々な事業を推進していき、市民の学習意欲や産業振興等に結びつけていくことが重要であるとしたところでもあります。
- あわせて、大学生等の若い世代が住みよいまちづくりを推進する必要があるとしたところでもあります。

会 長 委員長 それでは、御意見を申し上げます。

2-1教育についてですが、8ページの下から2行目の「学校や社会に適応できない児童、」の後に「生徒」を入れていただきたいと思います。児童は一般的に小学生を指しますので、生徒も入った方がいいと思います。また、この取組は新たな支援教育センターのようなものですので、各市町村にあるわけではなく、これから大きな課題となりえます。今後10年の中で実現をしていただければ子どもたちにとってもいいことなのではないかなと思います。それから、今小中学校は「がってしない子どもづくり」を目標として各学校が取り組んでいます。この「がってしない子ども」も一つの大きなポイントになると思います。また、文科省が統廃合を進めるような内容の記事が出されていましたが、今後10年を考えた際に、現在中断している適正規模・適正配置について継続する方針となれば、入れていただければ米沢としても実現可能な新たなものになると思っております。

会 長 委員長 ありがとうございます。他にございますか。

今の委員の発言に関連してですが、私も適正規模・適正配置はどうなったのかなと思っております。小中一貫教育が国の方針なのかなと思っておりますが、今回の計画に組み込めるのであれば、商業や産業だけでなく、教育も時代の先取りができ、なかなか魅力的だと思うので、米沢市として学校配置を見直している時期ですから、それをさらに膨らませて、一貫教育にどう絡めていくかという部分を盛り込むのも魅力的だと感じました。また、2-5学園都市ですが、学園都市というどうしても3つの大学が中心になってくるわけですが、イメージとしてはせつかく3つの大学があるので、もっと小中高を含めたトータルの教育として考えてほしいと思いますし、適正規模・適正配置の話もありますので、学園都市ということであれば、小中高校と大学の連携を考えて構想していければ米沢らしさが出ると思います。もう一つは、スポーツのところですが、米沢市民のスポーツに対する関心というのは決して低くないと思います。先日も申し上げましたとおり、ウィンタースポーツとしてどの小学校でもクロスカントリーに力を入れて取り組んでいます。米沢市が管理しているクロスカントリースキー場が田沢にあるのですが、トイレが使えず大変不便をきたし、練習に行く子どもたちは大変

困っています。きちんとサポートすべきところはしないといけないと思います。サポートすることで、子どもたちは、大人が自分たちのことを考えてくれていると感じるのだと思います。普段は使っていないくても、時季になると使えるように手が入ったり、目につくものに手が加わったりしていると、子どもたちは自分のことを考えてくれていると思うのです。辛かったことなどは覚えているものなので、そういったところで郷土に対する想いも失せてしまうのかなと思います。このスポーツの部分で、関心を高めるだけで終わるのではなく、高まった意欲に応えられるような環境を整備していくということにも視野を広げて考える必要があると感じました。

会長 ありがとうございます。個人的にはスポーツ設備は大事だと思うので、環境整備は必要だと思います。

委員 人材育成が教育分野に入るのであれば、幼少期から青年期までの学校教育を重要視しがちですが、企業に入ってから教育もたくさんありまして、例えば社会人になってすぐ仕事がこなせるわけではなく、色々な技術やスキルなどを身に付けながらその職を務めていきますし、また産業など新しいものにチャレンジしようと思ったときなど、青年期を過ぎてからも生涯勉強する機会はあるはずだと思います。それが雇用環境の改善、人手の確保にもつながると思いますので、教育と言っても学校側が求める学問だけでなく、道徳やモラル等を教える分野などありますので、企業での教育も入れていただきたいと思います。

会長 ありがとうございます。生涯学習的な意味合いも持ちますね。他にございますか。

委員 教育の分野については、まさしく総合計画が「人づくり」という大きいテーマを掲げているので、ぜひ2-1の教育は産業教育も含めたトータルな人づくりという観点から多面的な教育の場面があるわけですので、もう少しボリュームを増やしていただきたいなと思います。また、学校教育の分野で書かれている内容を見ると、例えば地域に開かれた学校づくりや、特色ある学校づくりはすでに取り組まれているので、今さら言わなくともいいのではないかと思います。それよりは自立やチャレンジ精神、郷土を愛し、たくましく社会生活を営むことがトータルに考えて「がってしない子ども」だと思うので、小中学校で育てた子どもが地域の高校に通い、成長して人間力を高めて、社会人になるのかというところまで見届けなければいけないと思います。市としては小中学校が担当になると思いますが、その後の高等教育を受ける子どもたちに対するフォローが見えてこないのので、そこをカバーしていただきたいと思います。生涯学習については、高齢者となって楽しんだり生き生きとした活動をしたりするだけの生涯学習ではなく、それが地域に役立ち、協働を通して地域へ返していけるような取組を進めてほしいと思います。また、文化は心の豊かさを求めるだけが文化ではなく、文化が産業等にインパクトを与えて文化によって経済的な新たな価値を創造することもありますし、米沢の精神基盤である上杉鷹山のまちづくりの精神が10年後、20年後に向けた新たな総合計画の中でもその精神を掲げていただいてもいいと思います。上杉鷹山から受け継がれた精神文化が単に心を豊かにするだけでなく、

経済的な価値をもっていく力を文化は持っていると思いますので、そこを加えていただきたいと思います。

委員 私も教育について力を入れていかなければならないと思うのでもう少しボリュームは必要だと思います。教育委員会でも把握していると思いますが、生活保護を受給している世帯は米沢では高く、また生活保護を受ける前の貧困世帯も多くいらっしゃいます。家庭の教育力など、親が多様化しているのも教育の格差の原因だと思いますし、家庭状況によって塾等の学校以外では勉強できなかったり、働く親の姿を見ておらず、負の連鎖で大人になってから生活保護を受けるケースも多いので、小中学校の段階での教育格差は、親への支援もあるのですが、格差をなくして10年の計画で貧困世帯の子どもが増えないように、早い段階でセンター等がサポートしていくことは大切なことだと思います。教育の格差を少しでもなくしていくことが、雇用にもつながると思ったところです。

委員 文化のところで、「優れた芸術文化に接することができる環境づくりを進めていく必要があります」と書いてありますが、米沢はすでに作っていると思います。現在新文化複合施設も建設していますし、伝国の杜もあります。やはり、これからはこの施設を大学や学校と連携してどう活用していくかが重要だと思うのです。建てて終わりではなく、それからどうするかが大事だと思います。特に新文化複合施設は図書館も含まれていますし、大事だと思います。ぜひ交通機関等を各学校とつなげるなどの仕組みを作って有効活用できるよう具体的に進め、新文化複合施設を中心として文化エリアを創成し広めていくというような形はいかがでしょうか。また、教育について、親は教育熱心なので、教育への取組が良いとなると皆さん移住してきます。それで成功している自治体例もありますのでごく重要だと思います。加えて、学園都市と言っていますが、市民意識は薄いのではないのでしょうか。例えば、小中学校で「がってしない子ども」を推進し、高校大学と地元に通っていただき、大学ではサテライトなどをつくって市民の中に入っていることを進めていますので、できれば就業につなげて定着させるような取組をしていくというような具体的なものを入れたいです。

会長 御意見等がなければ、次に、3の自然・人・都市の魅力が調和するまちについて事務局から説明をお願いします。

事務局 中間意見書（案）に基づき説明

- 全体の現況等につきましては、少子高齢化や人口が減少していく一方で郊外への大型店舗の進出等により市街地の拡大化が進み、都市全体としての魅力や利便性が低下していることから、コンパクトな中心市街地の形成と円滑な移動手段等を確保する必要があるとしたところであります。
- また、本市の豊かな自然環境を保全し、歴史や文化を活用した魅力ある景観を形成するなど、米沢の特性・特色を活かした自然・人・都市の魅力が調和するまちづくりや、希薄化しつつある地域コミュニティの再生を図り、地域と行政が一体となったまちづくりを推進する必要があるとしたところであります。
- こうした現況を踏まえまして、コミュニティ環境におきましては、誰もが住み慣れた地域で健やかに安心して暮らしていけるよう、多様化する身近な地域課

題の解決に向けて、多様な主体の参画する仕組みづくりが必要であり、市民一人ひとりが地域社会を支える担い手として積極的に取り組む意識を醸成し、互いに支え合うコミュニティの再生が求められるとしたところでもあります。

- 交通基盤におきましては、公共交通の維持とともに、乗り合いタクシー等のデマンド型交通の推進を図り、少子高齢社会にも対応した誰もが移動しやすい移動手段の確保と充実に取り組む必要があるとしたところでもあります。
- また、本市においては特に雪による冬期間の移動インフラの確保が重要であり、協働等による除雪体制を確立する等、行政・関係機関・地域が一体となった冬でも快適に暮らせるまちづくりが求められているとしたところでもあります。
- 適正な土地利用の推進におきましては、計画的なゾーニングによる地域特性に応じた適正な利用を図り、将来を見据えた秩序ある土地利用の推進が求められているとしたところでもあります。
- 特に近年では高校が分散化したことにより街中に学生が集まりにくくなっていることから、都市機能のコンパクト化・集約化を図り、市民が魅力を感じ、楽しめる中心市街地、商店街を形成していく必要があるとしたところでもあります。
- 自然環境におきましては、良好な自然環境の保全をしていくことが求められているとしたところであり、市民が自然環境への負荷を抑えた環境にやさしい暮らし方を意識し、取り組んでいく必要があるとしたところでもあります。
- また、引き続き、地下水の水源の保全と地盤の沈下の防止に取り組んでいく必要があるとしたところでもあります。
- 景観形成におきましては、市内の歴史的資源や豊かな自然の恩恵を維持し、次代へ継承していくための適正な土地利用や景観の保全への取り組みが引き続き求められているとしたところであり、米沢の「顔」にふさわしい駅周辺の景観整備に取り組むことも重要であるとしたところでもあります。

会 長 それでは、御意見を申し上げます。

委 員 3-5の景観形成のところでございますが、「適正な土地利用や景観の保全への取り組み」とありますが、今あるものの景観の保全だけでいいのかなという思いがあります。歴史的な資源を新しく創り出すこともあっていいのではないかと思います。今シャッター通りになっている新文化複合施設建設中のアーケードがある辺りを利用して、飛騨高山みたいな景観を創れないものかと思えます。そうすると武者道等とのつながりも出てくるのではないかと思ったところです。色々事情はあるかと思えますが、このようなことが可能であれば良いのではないかと思います。

会 長 平和通がシャッター街、飲み屋しかないという状況になっておりますね。ありがとうございます。

委 員 11ページの3行目ですけれども、「都市全体としての魅力や利便性が低下しています」とありますがこの捉え方で良いのかなという思いがありますがいかがでしょうか。

会 長 若い人は車で移動するので便利だという考えもあるでしょうけれども、バスを

利用する人やタクシーを利用して買い物をする人がいるわけで、そういう方々を見ていると、郊外に大型店があるのはいかなものかということなのでしょうね。このことも御意見ということで承っておきます。

会 長 御意見等がなければ、次に、4の健やかな育ちと安心な暮らしを支え合うまちについて事務局から説明をお願いします。

事務局 中間意見書（案）に基づき説明

- 全体の現況等につきましては、安全で安心な暮らしの実現は、市民共通の願いであり、市民生活を脅かす様々な危険や不安を解消していく必要があるとしたところであります。
- また、冬期間においても円滑な市民生活や産業経済活動を確保するための対策を講じる必要があるほか、雪を資源として活かす克雪への取り組みが求められているとしたところであり、その他様々な危険に対して総合的に対応していくため、地域力の向上に努め、子育てを支える社会基盤を充実させるとともに、市立病院の機能充実や他の医療機関、福祉、介護施設等との連携を強化する必要があるとしたところであります。
- こうした現況を踏まえまして、防犯・交通安全におきましては、「自分たちの地域は、自分たちで守る」という意識のもと、互いに支え助け合う関係を築き、地域の安全を地域で見守る体制づくりが求められているとしたところであります。
- また、こうした取り組みを通じて、子育てしやすいまちづくりを推進していくことも重要であるとしたところであります。
- 雪対策におきましては、これまでも除排雪の推進等、冬期間の市民の安全を確保する取り組みが進めてきたところであり、今後も、冬期間の雪による安全を確保しつつ、雪を資源として有効活用するまちづくりを目指していく必要があるとしたところであります。
- 保健・医療・福祉におきましては、市民の健康をフォローしていく体制づくりや健康寿命の延伸といった保健活動の推進とともに、必要な医療・福祉サービスを提供する体制を構築し、健康長寿のまち、高齢者、障がい者が安心して暮らせるまちを目指していく必要があるとしたところであります。
- また、医師や介護職の確保が引き続き求められているとしたところであります。
- 子育て環境におきましては、若い世代が将来に希望を持ち、結婚して安心して子どもを生み育てることができるよう総合的な取り組みが求められているとしたところであり、子育ては本来楽しいものであると思える保育体制・子育て支援制度の充実を図る必要があるとしたところであります。
- 防災・エネルギーの安定供給におきましては、大規模災害に備えるため、減災を基本とした迅速な対応等の防災対策に取り組み、市民の生命・財産を守るネットワーク体制を構築するほか、自然エネルギーを活用したエネルギーへの転換、供給体制の構築を図るなど、市民の暮らしを守る安全安心なエネルギーを確保していくことが必要とされているとしたところであります。
- 総合的な安全安心におきましては、市民が安全に安心して暮らせるまちづくり

に向けて様々な分野での総合的な安全安心の確保が必要であること、また、知的財産をはじめとする様々な情報を外部からの不正行為や情報漏洩等から守るとともに、生産・製造・加工の過程で起こりうるリスクをどう乗り切るかといった意識づけや対策も求められているとしたところであります。

会長 委員 それでは、御意見を申し上げます。

14ページの4-3保健・医療・福祉の5行目のところは、1-2の工業で山形大学工学部の技術活用と同様に、「食育の推進、生活習慣病の予防、重度化予防による健康寿命の延伸」に米沢栄養大学の健康と栄養に関するシンクタンク機能を活用するという文言を入れていただきたいと思ひます。

会長 委員 米沢栄養大学という言葉を入れさせていただきます。

4-4子育て環境の15ページ1行目ですが、「子育ては本来楽しいものであると思える保育体制、子育て支援制度」とありますが、ここに施設の整備充実という言葉も入れておいた方がいいのではないかなと思ひます。児童会館など子どもを遊ばせるために冬期間利用されているところですが、施設が古くなっていることからもう少しグレードアップする等して他自治体にあるような、小さい子どもや小学生などが冬期間でも楽しく遊べるような施設に拡充するような手だてが必要だと思ひます。

委員 施設の充実ということで具体的に言いますと、親子で集える公共の施設の充実と捉えていただきたいと思ひます。保育体制というと、保育園の整備に思いが行ってしまうのではと思ひますが、今の保育園は整備されていますので、保育体制という言葉でなく、親支援、子育て支援、そして公共の施設の充実というように表現していただいた方がより現実味があると思ひます。それと、ここに仕事をしている若いお母さんたちを考へて、育児休業や授乳時間の取得率の増加を働きかける視点も入れてほしいと思ひます。

委員 4-3保健・医療・福祉の部分の食育のところですが、米沢には「かてもの」というとてもいい伝統食である健康増進食がありますので、「かてもの」文化を用いた食育の推進といったような文言が入ってくると、上杉の城下町としての特色が一層出てくるのではないかなと思ひます。あと、米沢ではあまり関係ないとは思ひますが、4-6の総合的な安全安心の部分で水源地を守るための土地の売買の規制等の文言が入れば、将来的にグローバルな社会になった時の総合的な安全安心になるのではないかなと思ひます。

委員 4-5防災のところ、米沢がこれから周りの市町を取り込んできちっと残っていくということであれば、防災についても地域の中心になって取り組んでいくのだということを入れるべきではないかなと思ひます。全部を盛り込んで出しているのか、あるいは、米沢らしさといった米沢の生き残りには何が必要なのかをその中で絞り込んで出すべきなのかということ考へた場合、本来であれば最終的には絞り込んで出すべきものだと思ひます。そうでないと、やりたいことがたくさんあっても実際にはお金の問題もありますし、何が一番火急なのかという意識も必要ですし、国で素晴らしいアイデアを出すと支援するという動きもあるので、それに向けての対応も次の段階で必要なのではないかなと思ひます。

会 長 確かにこれを全部実現すると理想郷ができるわけですが、実際は財政状況等を見ながら優先順位を決めながら一つ一つ進めていく形になると思います。今回は、「人づくり」がキーワードになっていますので、重点的にその部分の施策等が入ってくるのかなと思います。あと、先ほどの「未病」のような基本的な言葉が欲しいですね。

委 員 4－2 雪対策の所ですが、雪を何とかしないと老後も厳しいという声が聞こえてきます。米沢市は特別豪雪地帯になっているということですが、これによって国から何らかの支援は得られるのでしょうか。

事務局 直接的な補助金等はありませんが、交付金で寒冷地補正を受けているので雪が降らない所よりは国からの財政支援を受けています。

委 員 国でも地域の支援を高めていくということなので、もっとバックアップしていただければと思います。冬場は移動、暖房、雪下ろし等に費用がかかりますので、最終的には住宅も集合住宅にしていかなくてはいけないのかなと思います。雪の利用については国内でなく米沢でどうすべきかを書いていくべきだと思います。

4－3 保健・医療・福祉の所では3行目に「在宅を基本とした生活」とありますが、健康で生活する意味だとは思いますが、現在介護している方は在宅で介護しろと言われてるように捉えてしまう恐れもありますので、福祉施設の充実だとか、介護に就いてくださる方を増やす取組に力を入れてほしいので、この表現は少し引がかかります。都会では介護施設が不足していて、地方に引っ越しをしてくる人もいと聞いていますので、逆転の発想で介護施設を充実させて人を増やすということもあるのではないのでしょうか。

委 員 4－4 子育て環境の部分では、単なる子育て支援制度や保育体制だけでなく、男女共同参画社会を創る上でいかに男性が子育て期に職業人として働きながら一緒に参画していくかということが一番大事なことで、そのためには施設を作ることではなくて、企業など社会全体で男性がいかに関わっていけるのかということが大事であり、育児時間等の制度をしっかりと維持できるような企業を増やしていくことが大事です。そのためには、県も支援を行っていますが、米沢としてもしっかりとこのことに取り組んでほしいと思います。4－3 保健・医療・福祉とありますが、福祉と介護は似ているようで若干違いますので、この中には介護と医療、福祉と介護の連携も当然ありえることは理解いただいていると思います。生活保護の問題ですが、65歳以上の生活保護者が増えています。米沢市は他の市よりも多いです。今後団塊の世代が75歳になる10年後、ますます増えていくこととなりますので高齢者が生活保護世帯になることをどう防いでいくかということが問題になります。高齢者は年金生活者ですから、夫婦2人で老齢基礎年金しかもらえない世帯が2人で5万円ずつもらって何とか暮らしているのが、1人がお亡くなりになると1人で5万円の年金で生きていかななくてはならない。そうすると生活保護の対象となってしまう。そう考えるとこれからの10年、20年後はこの方たちが安心して暮らして生きるために、金融機関と連携をしながら、高齢者の住宅等を担保にして生活資金を生み出すサービスを市としても考えていくことも視野に入れていただきたい。4－2 雪対策については極論ではあり

ますが、市役所から半径1.5キロ以内は徹底的に除排雪をすると街中への居住のインセンティブが働いて中心市街地の集約化、人口の定住化につながるのではないかと思います。選択と集中ということであれば一考していただきたいと思います。

委員 雪対策については、市民からの反発が予想されますね。他に御意見等がなければ全体を通して御意見があればお願いします。

委員 全体を見させていただいて、委員の皆様が過去に発言された内容をうまく取り入れていただいているなという第一印象でありました。ただ、忘れていけないと思っていることは、常に動いている中での計画づくりであるということです。今から10年後、20年後、50年後という議論もありましたが、これまではどうだったかという、例えば雪対策にしても昔に比べると格段に進んでいます。昔は昨年末くらいの雪が降ると市内のあらゆるところで水が溢れて出てしまっていたのが今はそんなに見られなくなっています。間違いなく、市民の大きな意図するところの速度とか内容は別にしましても、計画は進んでいるということを確認していかないといけないと思います。学園都市に関しても、大学と民間との関係はここ30年、40年で劇的に変わっていると思います。30年、40年前は大学の先生が社会人教育や高校に出向いたり、中学校にジュニアカレッジで出向くなどはほとんどなかったはずで。今は、地域貢献について具体的に展開がなされて積極的にやられている。何か特化したものを出したいというのは私も思うのですが、都市を経営する観点上、必要不可欠なスペックはすべて網羅しなければならないという義務があるのだと思います。また、あることに重点を置きすぎてオーバースペックになっていくのは、お金や人、施設や装備がアンバランスになってしまいますので、守りの部分にオーバースペックになるべきではないと思います。大げさに言えば米沢版小さな産業革命、プラス小さなルネッサンスじゃないかと思います。産業のところで県内各市と比較して市民所得が少ないのは企業の付加価値が少ないからだというように記載されていましたが、今度の工業センサスで本当にそうなのか精査していただきたいと思います。高いところと比較して低だけなのではないかと思います。米沢が加工アセンブリー、下請け型が多かったから付加価値額が少ない。したがって企業の儲けが少なく給料が少ない。だから税収も少なく、商業販売額も少ないという悪循環に陥っていくわけですが、付加価値を高めるための内発型産業をいかに創出するのかというのが次のステップになります。そういう意味では大学との関係も必要だという記載も納得いくものです。産業がうまく回る起点となるもう一つは、健康に生きられることだと思います。例えば厚生労働省が最近公表した高血圧のビックデータ等を活用してサイエンスに基づく有効な対策を立てていく必要があると思います。人工透析患者が1人いますと年間500万くらいの医療費がかかります。これを未病対策で防げれば500万の医療費が削減されることから重要な項目だと思います。

会長 他に、御意見等がなければ、本日の御意見を踏まえた中間意見書の最終的な調整は、会長一任とさせていただくということによろしいでしょうか。

委員 異議なし

会 長 ありがとうございます。このことについて事務局から何かありますでしょうか
事務局 ただいま、最終調整は会長一任ということで御了承いただきましたので、1月
中に、会長の最終確認をいただいた中間意見書を委員の皆様にお送りいたします
とともに、審議会の代表として会長から市長に提出をお願いしたいと考えており
ます。

会 長 事務局から、中間意見書の取扱いについての説明がありましたが、説明のとおり
進めてよろしいでしょうか。

委 員 異議なし

会 長 それでは、中間意見書については事務局説明のとおり進めさせていただくこと
とします。(2)のその他についてであります。委員の皆様や事務局の方から何
かありますでしょうか。

事務局 今後の日程であります。中間意見書に基づき、総合計画の基本構想、基本計
画の原案を事務局で作成することから、少しお時間をいただきまして、次回審議
会の開催予定は4月以降とさせていただきたいと考えております。具体的な日程
等については後日改めてお知らせをさせていただきます。

事務局 委員の皆様から何かありますでしょうか。

委 員 キャッチコピーが必要ということで何回か意見が出ていたが、具体的に考える
のでしょうか。

事務局 キャッチコピーについては、計画全体を縦に貫くようなものとして最終的な計
画には必要だと考えていますが、今回の中間意見に盛り込むかどうかは会長と相
談させていただきたいと思えます。

会 長 後で、メール等でお尋ねするかもしれませんのでよろしくお願ひします。

事務局 大変ありがとうございました。本日はお忙しい中、御出席いただきまして誠に
ありがとうございました。これをもちまして平成26年度第6回米沢市総合計画
審議회를閉会いたします。

(4) 閉会

以上